

親子のコミュニケーション 指導のためのプログラム

< 展開例 >

1. 指導の機会
中学校 PTA 集会 (学年懇談会)
2. 対象学年等
第1学年の保護者
3. ねらい
子どもとの会話の大切さや家庭が家族にとって拠り所であることを再認識する。
(1) 題材 親子のコミュニケーション
(2) 展開

| 時配 | 指導の流れ | 指導上の留意点 |
|----|--|--|
| 5 | <p>1 導入</p> <p>(1) 昨日の子どもとの会話内容を思い出し、プリントに記入する。</p> <p>○昨日、お子さんとどんな会話をしましたか。メモしてみてください。</p> <p>○どのくらいの話題について会話をしましたか。</p> <p>・ 0～2 ・ 3～5 ・ 6以上</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">家庭での親と子のコミュニケーションを考えましょう</p> | <p>○できるだけ、簡単にメモを取るよう助言する。</p> <p>○会話が多岐にわたっているが、同じ話題について深く会話しているかという点について尋ねたい。</p> |
| 20 | <p>2 展開</p> <p>(1) 子どもとの会話を体験する。</p> <p>○2人組になり、事例1と事例2をそれぞれ体験する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>事例1</p> <p>*お母さんは忙しく、いつものようにアイロンをかけている。</p> <p>*子どもが話しかけているが、忙しさのあまり、振り向こうとしない。</p> <p>子ども：ねえ。おかあさん。僕(わたし)……で○○○に×××したんだ。</p> <p>母：それはすごかったね。よくがんばったね。残念だったね。など</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>事例2</p> <p>*お母さんは忙しく、いつものようにアイロンをかけている。</p> <p>*子どもが話しかけてきたので、アイロンがけをやめ、子どもの顔を良く見る。</p> <p>*相づちを打ち、子どもの言葉を繰り返す。</p> <p>*質問をする。</p> <p>子ども：ねえ。おかあさん。僕(わたし)……で○○○に×××したんだ。</p> <p>母：それはすごかったね。よくがんばったね。残念だったね。など</p> <p>母：それからどうしたの</p> <p>子ども：△△△△△</p> </div> | <p>○隣の人とすばやく二人組をつくれるよう説明するとともに、事例1、事例2の会話内容等については子どもや母になりきって演技してもらおう。</p> |

○2つの事例を体験してどのような感想を持ちましたか。

- ・子どもが一生懸命話しをしているときに上の空では、子どものやる気をなくす。
- ・顔を見る、相づちを打つ、繰り返すなど態度や言葉などが大切であるということがわかった。

(2) 次の事例に対して答えを考える。

①事例3を提示し、子どもに話す言葉を考える。

事例3

テストで50点の点数を取ってきた子どもに、あなたはどのように話しますか。

②親と子のコミュニケーションについて考える。

<コミュニケーションのポイント>

- ・自分の考えや都合を押し付けていませんか？
- ・子どもの言う事を聞いてあげていますか？
- ・お子さんの気持ち・考えを受け止めていますか？
- ・結果ではなく、努力の過程を見てあげていますか？

5

3まとめ

(1) 家庭教育支援資料「親子のコミュニケーション」を配布し、資料を読み、家庭が家族みんなのよりどころであることを考える。

家庭とは

- ・お互いのあいさつ
- ・基本的な生活習慣を身につける場
- ・豊かな心、思いやりや善悪の判断を培う場
- ・心の拠り所で心地よい場

○体験の様子から指名計画を立て、簡単な感想を発表してもらおう。

○事例3の言葉は、教師の予想を話し、その効果や問題点について教師が意見を述べる。

○家庭でのコミュニケーションの大切さについて話しをする。

○普段から子どもと会話をすることが家族の絆をつくり、居心地の良いほっとできる家庭がつくられることを気づかせる。